

# 生ごみ処理機器利用者アンケート調査結果

## ■調査対象者

平成13年度から平成22年度の間に生ごみ処理機器の購入費補助を受けられた方

## ■調査方法

調査票を対象者へ郵送し、返信用封筒で回収

## ■調査期間

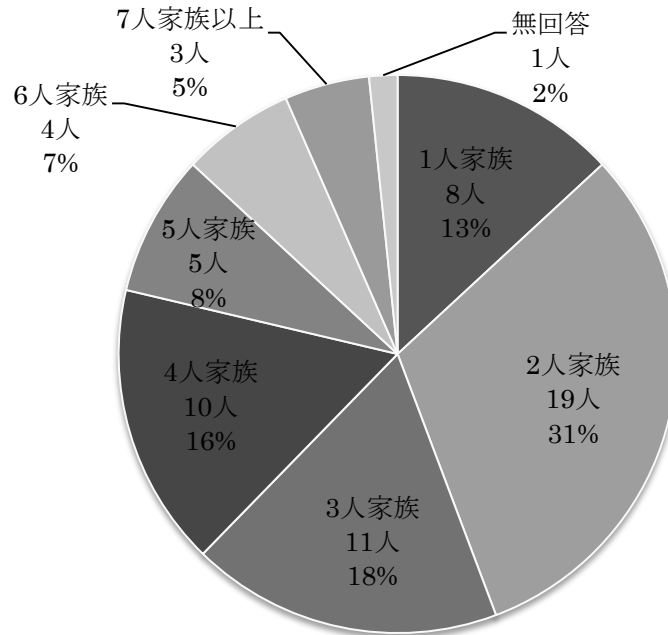
平成24年1月

## ■回答率

62% (99人中61人)

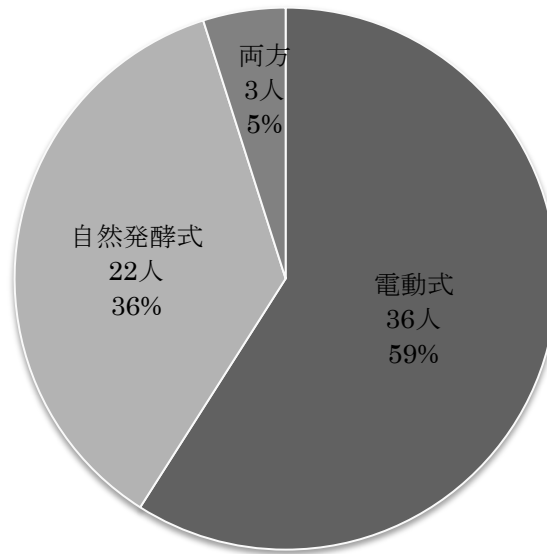
## ■調査結果

### 問1 ご家族は何人ですか



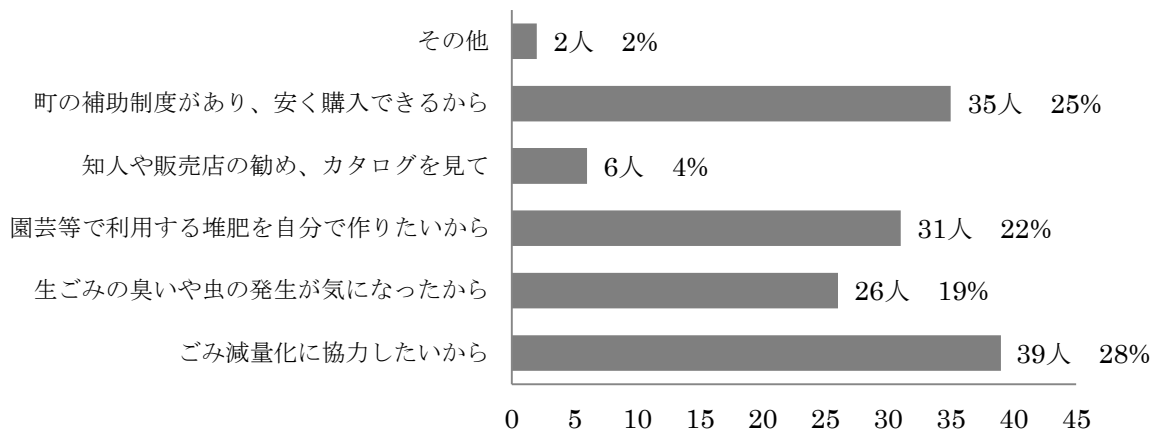
・制度を利用した世帯は、2人～3人家族が半数を占めています。

## 問2 購入した処理機器は電動式、自然発酵式のどちらですか？



- ・制度を利用して購入した処理機器は、電動式が約6割を占めており、そのニーズの高さがうかがえます。

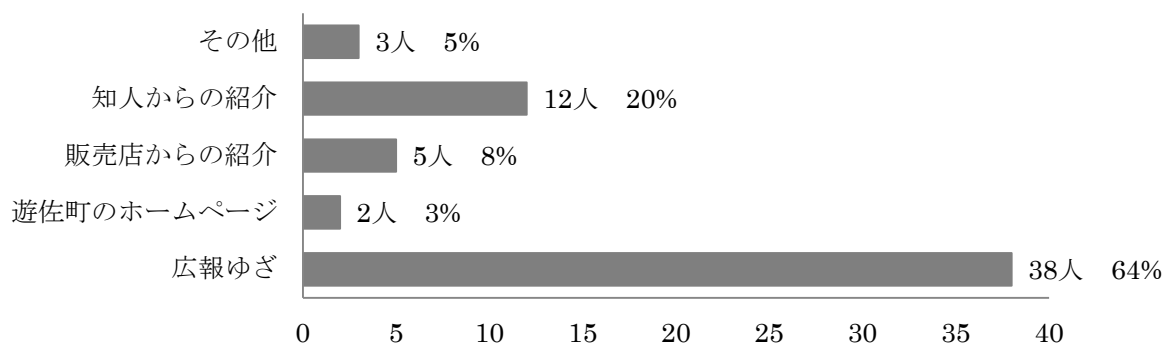
## 問3 購入したいと思った理由はどれですか？（複数回答可）



### 【その他の内容】

- ・自宅側の畑（家庭菜園）にさらされた生ごみに鳥（からす）が寄って来るのがいやだったから
  - ・以前から使っていた（3台目）
- ・「ごみ減量化に協力したい」とする理由が最も多く、制度利用者のごみ減量に対する関心の高さがうかがえます。
  - ・また、「補助制度があり、安く購入できるから」という回答が次に多く、当制度が生ごみ処理機器購入の動機付けとして有効であることがわかります。

#### 問4 補助制度は、どちらで知りましたか？

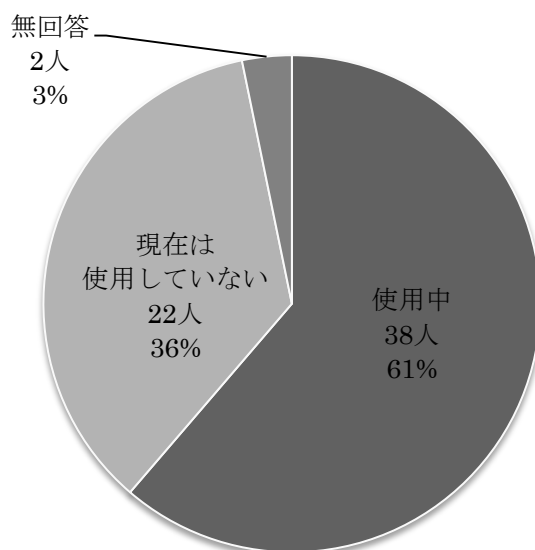


#### 【その他の内容】

- ・新聞広告
- ・環境推進員になって

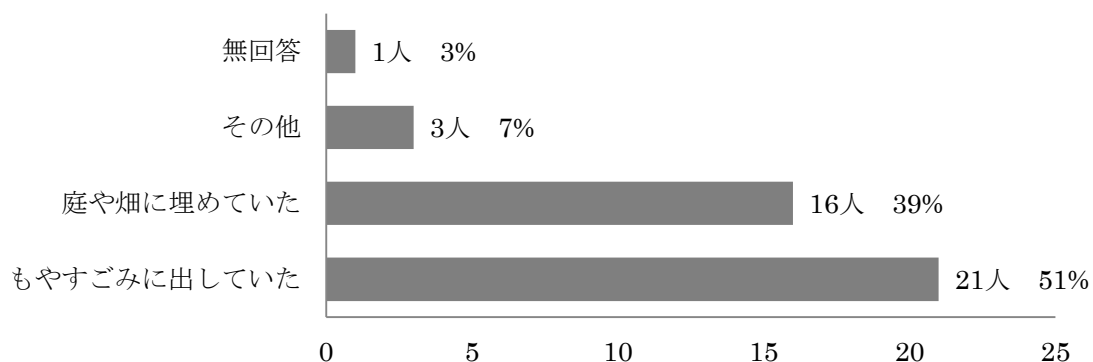
- ・「広報誌で知った」とする回答が圧倒的に多く、広報誌が制度周知に有効であることがわかります。
- ・一方で、その他の方法で知った方は少なく、その他の媒体での周知にも力を入れる必要性があると考えられます。

#### 問5 処理機器を何年使用していますか？



- ・購入した処理機器を現在も使用している方は約6割でした。
- ・何らかの理由により使用をやめた方が約4割います。(→主な理由は問15に記載されています)
- ・また、使用していない方の約8割が電動式となっています。

## 問6 購入前は生ごみをどのように処理していましたか？

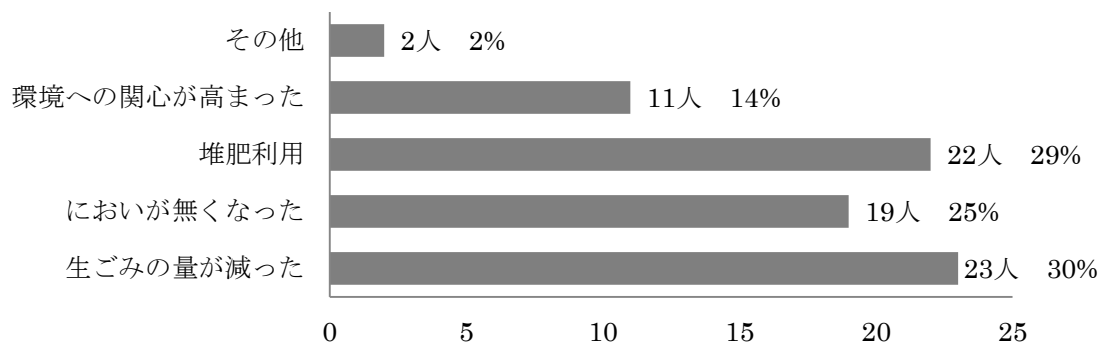


### 【その他の内容】

- ・ 稲堆肥塚していた
- ・ コンポスト

- ・ 約半分の方がこれまでもやすごみに出していた生ごみを処理機器の活用によって、減量化をはかったことがわかります。
- ・ また、約4割の人が制度利用の前から自己処理していたことがわかり、制度利用者の減量意識の高さがうかがえます。

## 問7 処理機器を利用して満足な点はなんですか？（複数回答可）

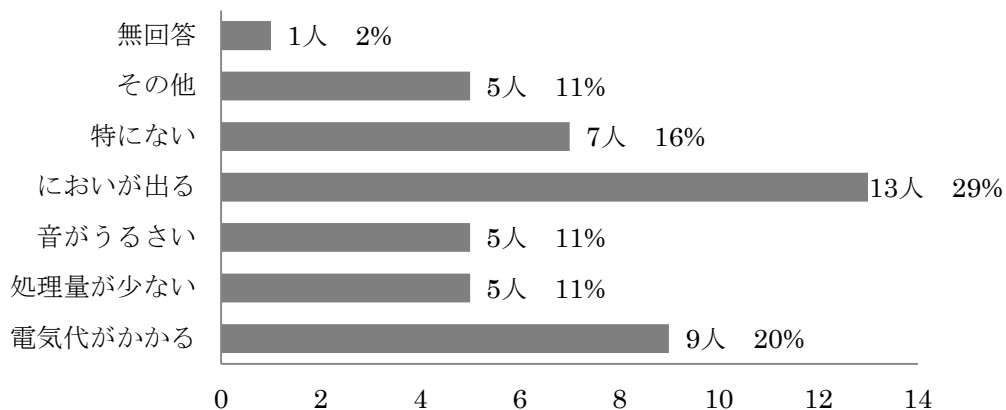


### 【その他の内容】

- ・ 鳥がこなくなった
- ・ 生ごみを処理するまでの保管庫がわりになるため

- ・ 「生ごみの量が減った」とする方が最も多く、生ごみの減量を実感していることがわかります。
- ・ 「堆肥利用」とする方が次に多く、処理機器によって生成される堆肥が有効に活用できることがわかります。

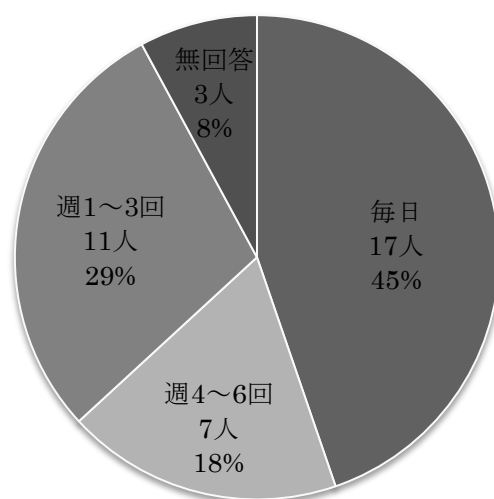
### 問 8 処理機器を利用して不満な点はなんですか？（複数回答可）



#### 【その他の内容】

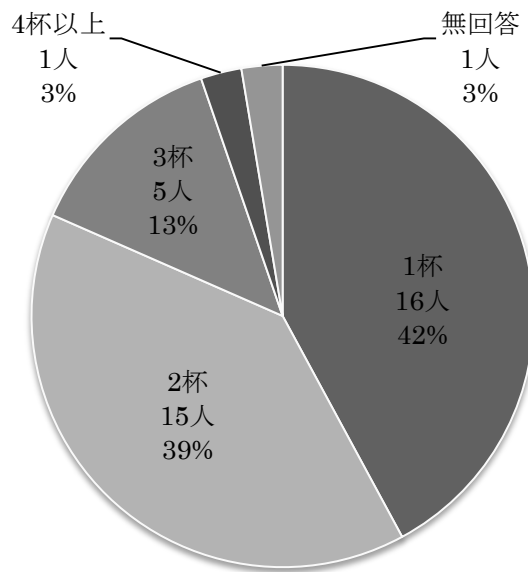
- ・畑で上手に発酵させることができない（知識がない）
  - ・修理代がかなりかかった
  - ・まわりをモグラかネズミかわからないが、土がもり上がったり、道が出来ている
  - ・水分量が多かったり、大きなかたまりが入ったせいか、羽の回転が悪く回らない時がある
  - ・なかなか堆肥になりにくい
- ・「においが出る」とする方が最も多く、その機種割合では電動式がより高いことがわかりました。
- ・また、「電気代がかかる」という方が次に多く、処理機器の省エネ化を求めていることが示されています。

### 問 9 使用頻度はどれくらいですか？



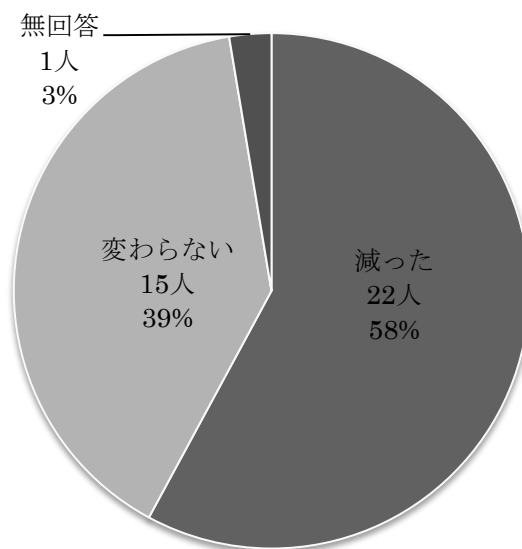
- ・「毎日」及び「週4~6回」と答えた方が約6割を占めています。
- ・一方で「週1~3回」と答えた方が3割弱となっており、使用頻度が低い方も少なくないことがわかります。

**問 10 一日あたりに出る生ごみ量は三角コーナーでどのくらいですか？**



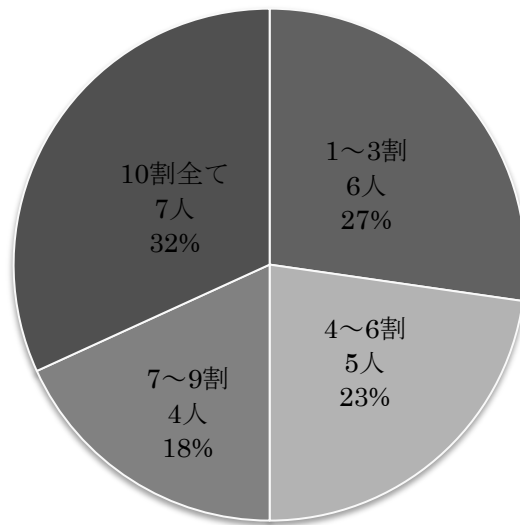
・ 1杯から2杯とする方が約8割を占めていることがわかります。

**問 11 処理機器を利用するようになって生ごみの量はどうになりましたか？**



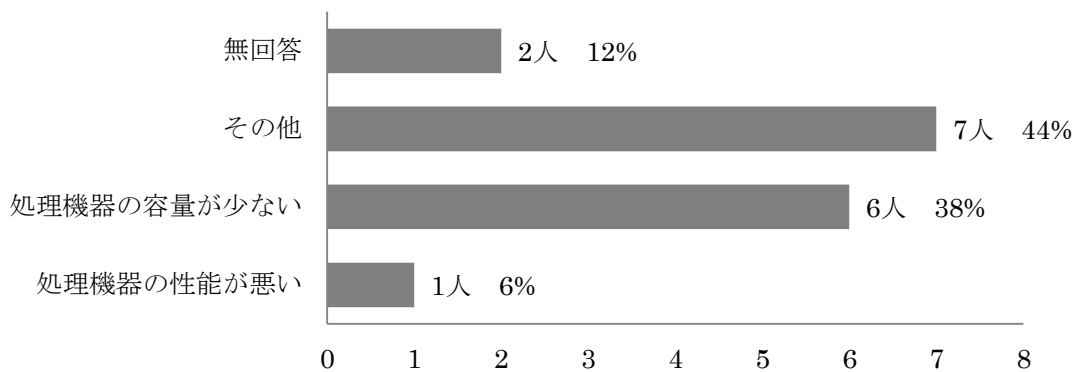
・ 減ったとする方が約6割を占めており、処理機器が生ごみの減量化に効果があることがわかります。

**問 12 一日あたり、約何割の生ごみが減りましたか？**



- ・すべての生ごみを処理機器によって処理している方が約3割、また7割以上処理している方が約半数を占めており、ほとんどの生ごみを処理できていることがわかります。

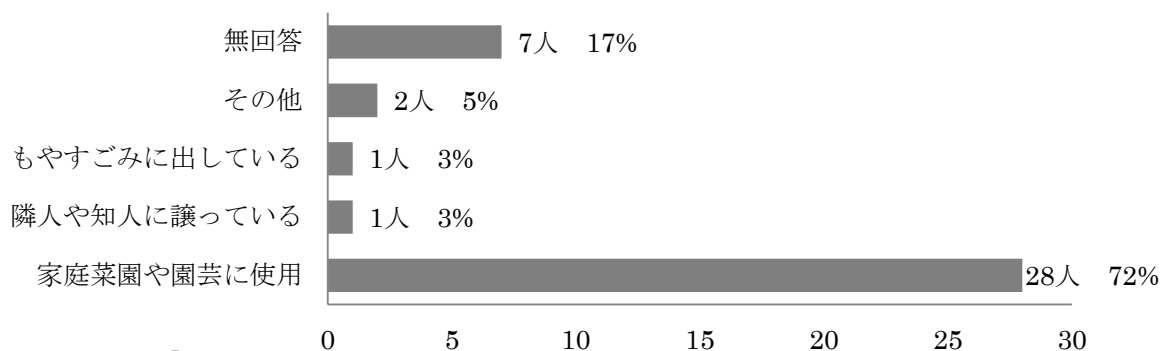
**問 13 全ての生ごみを処理できないのは、どうしてですか？**



**【その他の内容】**

- ・処理機器に投入できないもの（貝類、魚の骨、卵の殻など）があるから
  - ・野菜くずは乾かして、木の根元等に埋め戻す
  - ・種等は乾燥してもそのまま出てくる。また、あまり水分が多いものは時間がかかるため
  - ・天気が悪い時は、もえるごみに入れてしまいがちである
- ・処理機器の容量の少なさと処理性能によるものがほとんどであり、機器の性能の向上を求めていることが示されています。

## 問 14 処理機器で処理したものはどのように使用していますか？



### 【その他の内容】

- ・ 容器の中に溜まったままになっている
- ・ ほとんどの方が家庭菜園や園芸に使用しており、循環利用が図られていることがわかります。

## 問 15 処理機器を使用しなくなった理由を教えてください。

### ○電動式

- ・ 機器の容量は小さく、野菜くず等は水分が多い為、長時間の使用となり、時間的に無理がありました。
- ・ 故障により使用できなくなった。
- ・ 処理器に入れるとき分別や細分しなければならず手間がかかる。
- ・ 電気代がかかる。音がうるさい。
- ・ 堆肥をつくるタイミングがうまくいかず、結局化学肥料優先となった。堆肥をつくる場所の問題もあった。(臭いなど)
- ・ 堆肥にして畑に使っていましたが、タヌキや他の動物がきて種や苗を植えた後に、毎度掘られたり荒らされたりして駄目でした。堆肥を作るときに油を少し入れますので香ばしい匂いがするからだと思います。
- ・ 臭いが強くて処理機の置く場所に困りやめました。

### ○自然発酵式

- ・ コンポストのため自然発酵に時間がかかり、また知識不足でした。
- ・ 以前は使用しておりましたが、町のもやすごみ袋に入れるようになってから、使用しなくなりました。
- ・ 処理機器の性能の理由で、使用を中止してしまった方が多いことがわかります。
- ・ また、処理過程で発生する臭いにも問題があることがわかります。



## まとめ

- ・家庭用の生ごみ処理機器が、生ごみの減量化に効果があり、またその購入の動機付けとして当制度が有効であることが裏付けされた。
- ・処理したものは堆肥として使用している方がほとんどであり、当制度の目的の一つである循環型資源の有効活用という点に対しても、効果があることが確認された。
- ・制度を利用して購入された方のうち、機器の処理能力の限界、処理コストや臭い等を理由として現在使用していない方が36%と割合が高かった事から、電動式、自然発酵式それぞれの機器の特性（メリット・デメリット）や性能等、きめ細かな情報提供が必要である。
- ・制度の周知について、そのほとんどが広報を情報元としていることから、広報誌での情報提供を強化するとともに、その他の媒体や機会を捉えて周知し、更なる普及を図る必要がある。